



20160922国立市

子どもから年長者まで、安心なわが町を自分たちが創り続ける

当事者に学び共に築くまちづくり
～大牟田市の取り組み～

大牟田市認知症ライフサポート研究会

認知症国家戦略～新オレンジプラン ～ご本人に学び、共に築くロード～

- ①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供推進
- ③若年性認知症施策の強化
- ④認知症の人の介護者への支援
- ⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦認知症の人やその家族の視点の重視

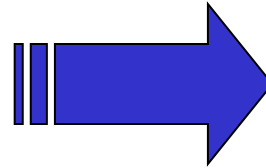
「日本認知症ワーキンググループ」
認知症になっても一人の人として生きていき
たい！

ニューカルチャーのまちづくり

オールドカルチャーからニューカルチャーへ 「認知症」の人 から 認知症の「人」へ

1. 認知症だから仕方がない
2. 認知症になると何もわからなくなる
3. 認知症は本人より周囲が大変だ！
4. 病気や症状ばかりに着目し、問題行動にのみ対処
5. 家族や一部が抱え込み、負担が増大
6. 行政や病院、施設にお任せ

問題対処型のケア



1. 認知症でも治療やケアの効果が期待できる
2. 認知症でも感情や心身の力が豊かに残っている
3. 本人中心、本人理解が基本
4. 病気や症状ではなく認知症の「人」に着目
5. 専門職と地域がチームで関わる
6. 地域全体が関わる

利用者本位のケア

パーソンセンタードケア

福岡県大牟田市の概況

～やさしさとエネルギーあふれるまち・おおむた～



かつては炭鉱のまち
(平成9年三池炭鉱閉山)
今、大牟田は
人にやさしいまちへ



●大牟田市の人口

約210,000人 ⇒ **118,756人**
(1960年) (2016年4月)

●高齢者数 40,853人

高齢化率 **34.4%** (2016年4月)
後期高齢化率 **18.1%**

●要介護認定者数 7,934人

認定率 **19.2%** (2016年3月)

●世帯数 57,185戸 (2016年4月)

高齢者のいる世帯 30,207戸(52.8%)
高齢者単身世帯数 13,933戸(24.4%)

●地縁組織(まちづくり協議会)加入率 **47.5%** (2016年4月)

地元の専門職と行政職員が仲間になり「真剣な議論」と活動を継続

大牟田市認知ライフサポート研究会(平成13年11月～)

認知症の人とともに暮らす町づくりの原点は・・・

大牟田市介護サービス事業者協議会の専門部会として認知症ケア研究会が発足。
出発点は、いつでも、どこにいても、誰といっても自分らしく、幸福に暮して欲しいという願い
だった。だから、自分の施設だけ良くてもだめ！



- ・構成メンバー:市内の介護事業所に勤務する職員(専門職)9名の運営委員からスタート、
コアメンバー・運営委員32名、会員約200名
- ・事務局 :大牟田市 保健福祉部 長寿社会推進課

行政と介護サービス事業所の協働

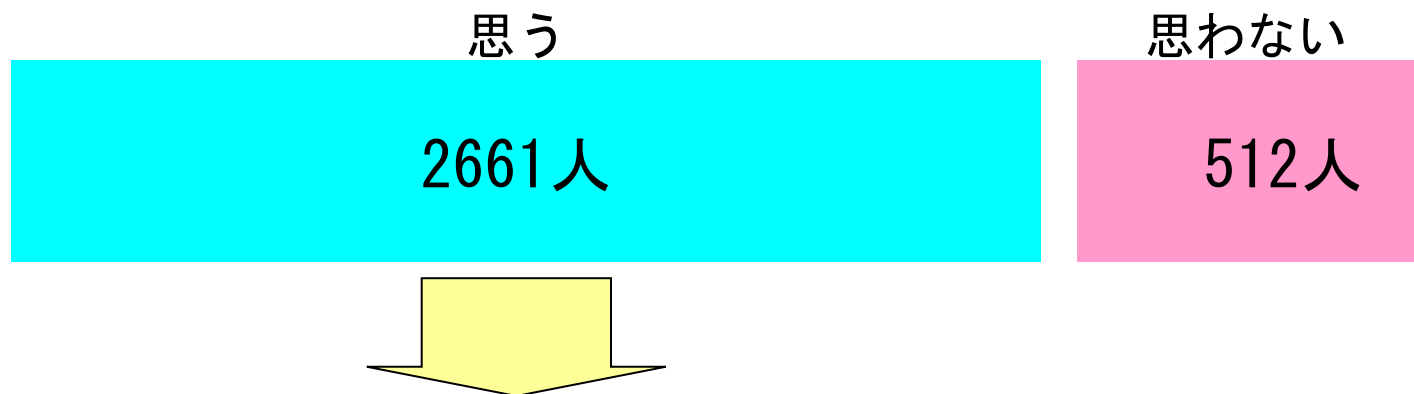


H14年度より地域認知症ケアコミュニティ推進事業へ

地域全体で認知症の理解が深まり、認知症になっても、
誰もが安心して暮らせるまちづくり

認知症介護に関する実態調査（平成14年度）

地域で認知症の人を支える意識やしくみが必要ですか？



地域づくりの提言、キーワード → 活動の基盤

- ☆向こう三軒両隣、隣組、小学校区単位の身近なネットワークの構築
- ☆公民館、民生委員の機能の復活と地域資源の活用
- ☆認知症を隠さず、恥じず、見守り、支える地域全体の意識向上
- ☆行政と地域の連携、推進者の育成・配置、介護現場の質の向上、いつでも相談できるサポートセンターの設置
- ☆子供のときから学ぶ、触れる機会をつくる
- ☆家族への支援、家族介護の負担の軽減

大牟田市・地域認知症ケアコミュニティ推進事業 取組みの経過

視点	主な取組	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
当事者・住民の視点・力の重視・協働	認知症介護実態調査	全世帯						全世帯			ニーズ			ニーズ		
	はやめ南人情ネットワーク日曜茶話会		平成16年度から年6回開催。地域みんなで巻き寿司づくり。学生や子どもたちが企画するそうめん流しなど。													
	子供たちと学ぶ認知症「絵本教室」		小学校1校													
	ほっと安心(徘徊)ネットワーク模擬訓練		● 駛馬南1校区 ○ 市内全域を訓練地域に ● 全ての校区で訓練実施													
	認知症介護家族の「つどい・語らう会」															
	本人支援「ぼやき・つぶやき・元気になる会」															
核となる人材・チームの育成・地域への配置	認知症コーディネーター養成研修	実践塾	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	8期生	9期生	10期生	11期生	12期生	104名修了 研修中	
	もの忘れ相談医登録制度		もの忘れ相談医ワークショップ → もの忘れ相談医＋認知症サポート医 → 相談医50名 (+認知症疾患医療センター)													
	もの忘れ予防相談検診		もの忘れ相談医＋地域包括支援センター＋認知症コーディネーター修了生・研修生													
	地域認知症サポートチーム		認知症サポート医＋認知症コーディネーター(+包括)													
地域とともにある拠点づくりと活きたネットワーキング	介護予防拠点地域交流施設				0ヶ所										45ヶ所	
	地域の小規模多機能サービス拠点づくり					GH13ヶ所 小規模0ヶ所									GH18ヶ所 小規模25ヶ所	
	地域密着型サービス施設の「住まい」化					運営推進会議への全職員派遣									GHと徳養の6人ユニット化	
	高齢者等SOSネットワーク					● 模擬訓練(全域)									● メール登録	● 周辺市とのネットワーク
	地域認知症サポート体制(地域包括ケアシステム)		当事者中心の三層体制(本人支援・ケア者支援・地域支援)													

ケア現場や地域で、認知症の人の尊厳を支え、本人や家族を中心に地域づくりを推進していく人材

「認知症コーディネーター」養成研修

履修期間2年間／計最大406時間(講義と実践学習、課題実習等)

到達目標

- 1. パーソンセンタードケアの理解と理念の醸成**
- 2. 権利擁護の徹底理解と日々のアドボケート**
- 3. 課題分析と適切な医療とケア・生活支援**
- 4. 協働のまちづくりの推進**

履修が修了条件ではなく、共通理念と協働できる人材かが条件

この13年間、常に
実践課題にそって
柔軟に修正、改善

大牟田市における認知症コーディネーター育成と配置

背景

- 1) 認知症ケアの現場の情報、知識、意識や実践力の乏しさ、多職種間、事業者間、行政や地域との連携の不足
- 2) 単発の研修では知識や情報の蓄積はできても、意識や理念の醸成、実践力は高まらなかった
⇒平成14年度年間6回コースの認知症ケア実践塾を実施
- 3) デンマークの認知症コーディネーターにヒントを得、養成研修開始

◎地域密着型サービス

⇒独自基準によりグループホーム及び小規模多機能施設に受講義務化)

◎急性期病院に認知症ケアの理念と視点を！

⇒急性期病院への受講の推奨

◎地域包括支援センターには完全配置

修了生117名（うち27名 認知症ライフサポート研究会運営委員）

市が配置している認知症コーディネーター：6名（うち2名修了生）

平成15年度

平成18年度

現在

大牟田市地域認知症サポートチーム

メンバー構成

- ・専門医（神経内科医・精神科医・老年内科医）
- ・医療センター、認知症サポート医
- ・認知症コーディネーター（看護職等）
- ・認知症連携担当者（地域包括支援センター）

役割

- ・困難事例へのスーパーバイズ
FTD, 若年性, 高度BPSD, 受診拒否, 自動車運転
- ・かかりつけ医との医療連携
- ・地域認知症サポートカンファレンス（月一回）
- ・若年認知症本人交流会、家族の集い・語らう会
- ・もの忘れ相談検診・予防教室、何でも相談窓口
- ・個別カンファレンス、サービス担当者会議での助言

地域包括ケアの3つの面(大牟田市)

地域で支援する面

校区公民館
老人クラブ
校区社協

専門医
認知症サポート医
もの忘れ相談医

個々の支援チームをサポートする面

個別的な支援の面

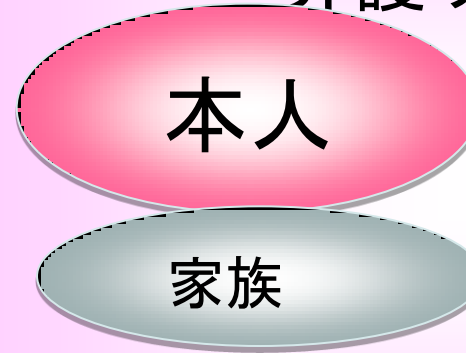
社会福祉協議会
在宅介護者の会

認知症医療センター

介護サービス事業者

民生委員
福祉委員
住民ネットワーク

地域認知症
サポートチーム



かかりつけ医
医療機関

ケアマネージャー

小中学校サポーター
(絵本教室)

地域包括支援センター

認知症コーディネーター修了生

初期集中支援チーム

認知症サポーター商店街
生活関連企業
サポーター

認知症コーディネーター

認知症予防教室
家族の集い・語らう会
本人交流会
認知症カフェ

認知症SOSネットワーク
全市内的な模擬訓練

地域住民・サロン

介護予防・地域交流拠点

大牟田市地域認知症サポートチームのミッション

1. 早期からの良い支援(複雑化のプロセスを断ち切る)ができるように医療と介護の両面から支援していこう！「入り口」の支援
2. 「変化点」が生じたときに、医療と介護の両面からの適切なアセスメントを行い良い流れからはずれないようにしよう！変化点・分岐点の支援

1)「入り口」を支援しよう

もの忘れ検診
予防教室
何でも相談窓口

2) 診断後の居場所・つながりをつくろう！

家族の集い・語らう会
本人交流会
認知症カフェ

3) 良い支援の流れをつくろう！

定例カンファレンス
認知症コーディネーター研修
多職種連携セミナー

もの忘れ予防・相談検診

ミニ学習 + 趣旨説明 + 予防教室

1次スクリーニング: タッチパネル式
もの忘れ相談プログラム
(13点以下 or 生活上の支障)

2次スクリーニング: TDAS
(7点以上 or 抑うつ傾向: 登録)

問診: 相談医、
専門医(神経内科・精神科)

相談: 認知症コーディネーター、
地域包括支援センター等

★すべての受診者(同意を得た人のみ)の
結果をかかりつけ医に報告

会場

地域交流
施設
商業施設

保健所

年度	受診者数
18	145人
19	129人
20	262人
21	198人
22	101人
23	391人
24	294人
25	445人
26	438人
27	353人

支援が必要
な人の割合

約30%

約50%

約30%

診断のための受診の促し
予防教室への参加
介護保険申請など
本人及び家族支援
かかりつけ医への報告

認知症何でも相談日

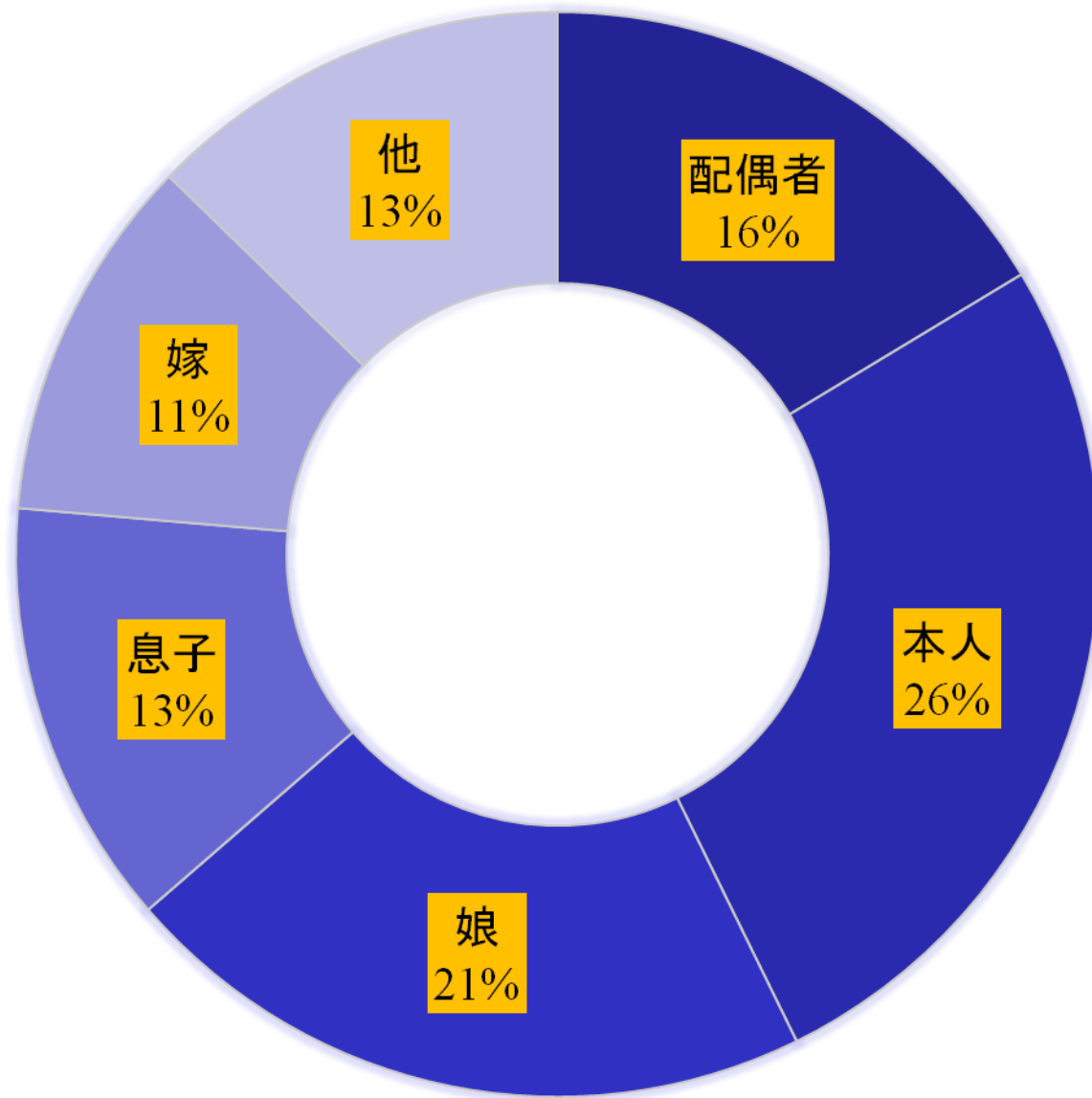
毎週水曜日13:30~16:30 市保健所で開催

こんなとき、ぜひご利用ください！

- ◆最近、もの忘れが心配！どうしたらいい？
- ◆家族が認知症ではないかと心配、でも病院に行くのは気が引ける！
- ◆認知症の診断を受けたけど、これからどうしていいかわからない！
- ◆認知症の家族の介護どうしていいかわからない
- ◆認知症や介護、予防について知りたい！

相談総数：**131件** 男性：**28**/女性：**71**

相談者の内訳



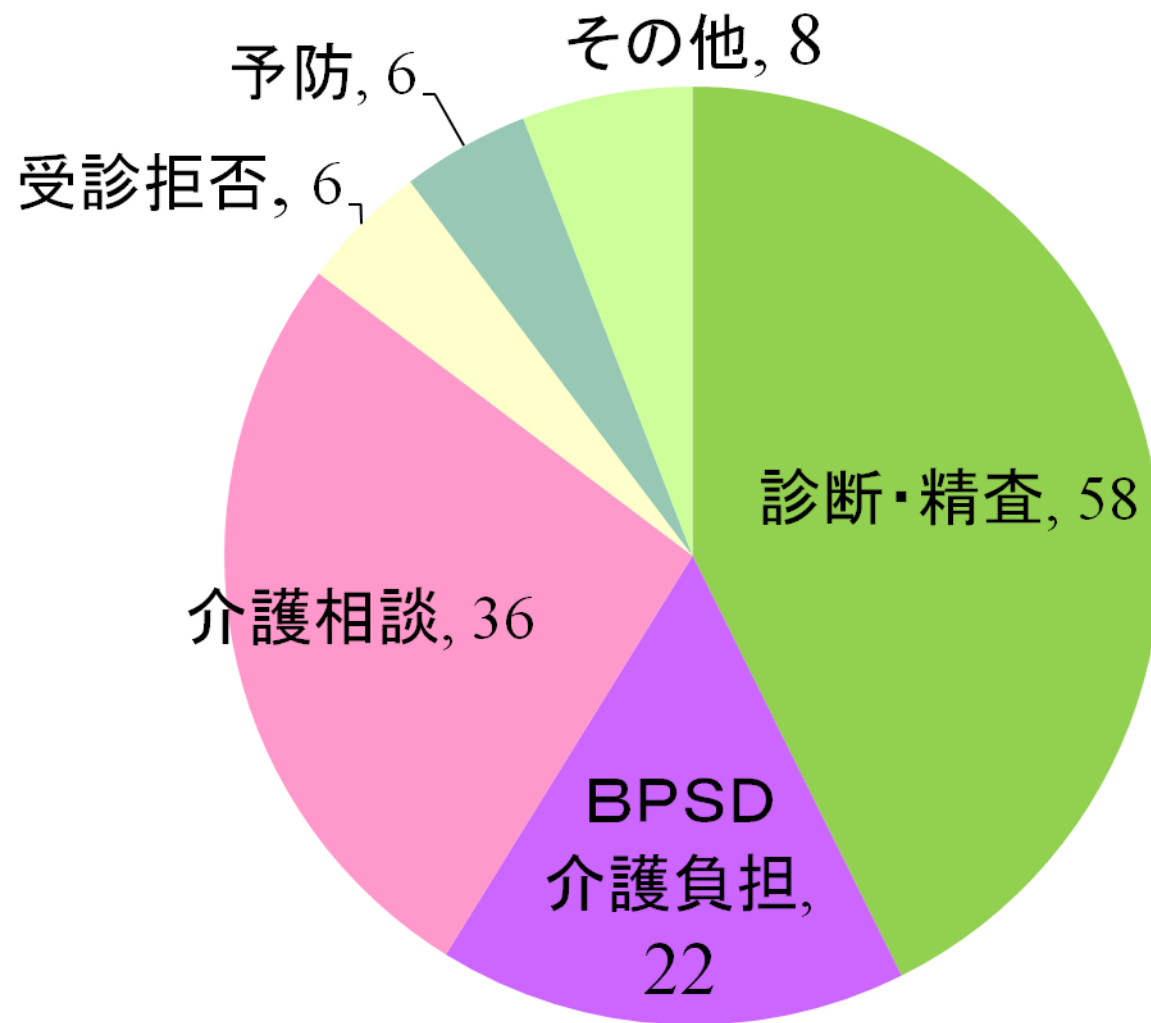
- H24年
本人:1名
- H26年以降
本人:21名



スクリーニング
頻度が増加

認知症への
関心が高まった

何でも相談の内容(H24~27)



何でも相談支援内容

認知症や介護・制度等の説明
情報提供・介護保険窓口への紹介



スクリーニング・介護・対応のアドバイス
家族のストレスケア・フォローアップ

当事者・家族の支援と 地域住民との協働

1. 若年認知症本人交流会
2. 多様な認知症カフェ

家族の集い語らう会

「認知症のご本人や家族の願いに寄り添って」

- ・毎月1回(定例会)
- ・学習会と家族同士の情報交換、交流、健康チェック、ケアビクスなど
- ・本人と一緒に参加可能
- ・男性介護者への支援、虐待ケースのフォロー

◆在宅介護者の会「元気会」 毎月第4水曜日
13時半～15時半 場所:総合福祉センター

社会福祉協議会

◆家族の集い・語らう会 毎月第3木曜日
13時半～16時 場所:総合福祉センター

介護サービス
事業者協議会

◆りんりんの会 毎月第3金曜日
13時半～15時半 場所:ケアタウン橘交流センター和

吉野地区地域
包括支援センター

◆ふれあいの会 毎月第2土曜日
10時～12時 場所:三川地区公民館

三川地区地域
包括支援センター

認知症本人交流会「ぼやき・つぶやき・元気になる会」

一人のご本人の「同じ病気の仲間と語り合いたい」という声から始まった

- ・毎月1回(定例会)
- ・当事者5~10名程度の集まり
家族も一緒に参加可
- ・本人同士の情報交換、交流、社会参加活動
- ・他県の仲間とのつながり
- ・厚生労働省当事者研究チームに参加

地域づくりの活動に地域の一員として参加
認知症になってからも、一人の人として、尊厳と
希望を持っていきる社会を目指して！

若年認知症本人交流会

ぼやき・つぶやき・元気になる会のねらい

- 同じような思いを持っている本人同士の出会いの場
- 本人同士が日頃の思いや願いを語らう場
- 一人で悩んでいる人が、仲間とつながり、一歩を踏み出す場
- 「私たち」をサポートしてくれている家族同士が出会い、語らう場

本人・家族、支援者の出会いの場 認知症カフェ

本人や家族が気兼ねなく参加できる場

本人・家族が気軽に専門職や地域住民と出会い、相談できる場

認知症を学び、共感し、地域で支え合う場

当事者
家族

地域住
民・学生・
ボランティ
ア

医療
介護の
専門職

まちの あちこちに 認知症カフェができると
⇒早期支援、介護負担の軽減、理解啓発

地域のネットワークづくり

1. 認知症SOSネットワークづくり
2. 小中学校の絵本教室

認知症による行方不明から見えてくる課題

- ・ 行方不明になった高齢者の中には、まだ家族が認知症に気づいていないことも …… **早期発見・診断の必要性**
- ・ まだまだ恥じたり、隠したりして、家族が助けを求めない・求められない …… **誤解や偏見、地域の理解**
- ・ ある日突然、帰り道がわからなくなったり、どうしてよいのかわからなくなり途方に暮れる
- ・ 対応の困難さ故、家族は疲弊していく …… **家族支援の重要性**
- ・ 家族だけでは支えられない …… **地域の理解と支援**
- ・ 広範囲に歩き回ったり、事故に遭ったり、長期間見つからず栄養失調になり死に至ることも …… **見守りや地域の実行力の高いネットワーク**

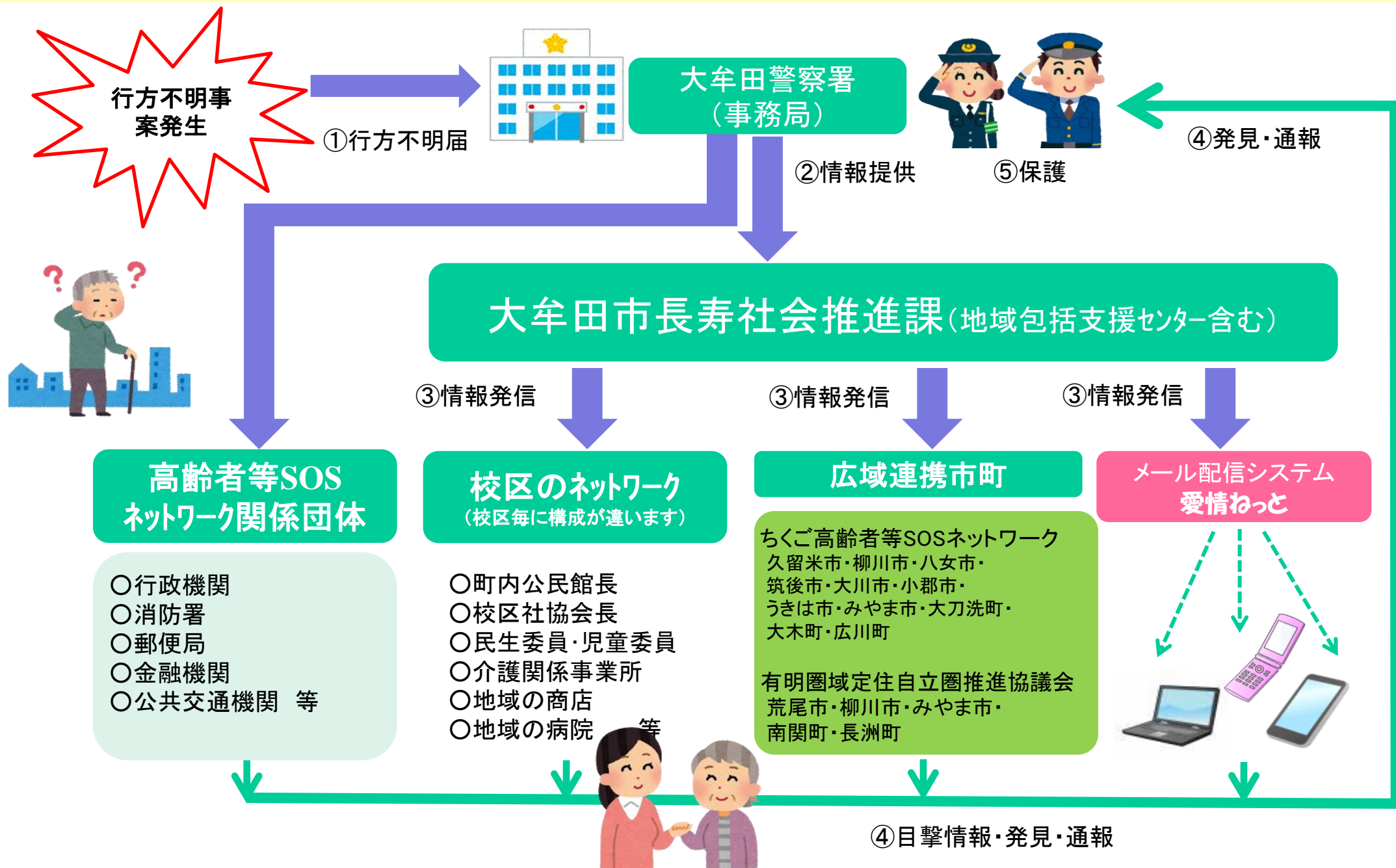
ほっと・安心ネットワーク

(高齢者等SOSネットワークを含む)

1. 認知症の人と家族を支え、**日頃から見守る地域の意識**を高め認知症の理解を促進していく
2. 認知症により道に迷ってしまう高齢者を隣近所、地域ぐるみ、多職種協働により可能な限り、声かけ、見守り、保護していく**実効性の高いしくみの充実**
3. 認知症になっても安心して暮らせるために、「**認知症になっても安心して外出できるまち**」を目指していく

年1回の模擬訓練は効果検証と課題の抽出

大牟田地区高齢者等SOSネットワークのイメージ



模擬訓練実施結果

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
模擬訓練参加者	311	612	881	898	1,865	1,717	2,019	3,083	3,127
当日のスタッフ	142	213	445	343	142	151	-	-	-
訓練参加者合計	453	825	1,326	1,241	2,007	1,868	2,019	3,083	3,127
外出役の人数	15	34	82	80	1	47	69	107	95
外出役に声をかけた人数	97	333	1,126	556	3	886	953	1,506	1,627
模擬訓練参加校区	7	9	18	(全校区) 21	22	22	21	21	※1校区は別日程(9/27)開催 21
他都市からの視察	21	18	136	131	115	147	138	177	173

(人)

※24年度末に、天道小学校と笹原小学校が合併し、全21校区となった。

※25年度以降、当日スタッフ数は参加者に含む。

これまでの視察自治体数 114自治体 ※26年度まで

大牟田地区高齢者等SOSネットワーク利用件数

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
高齢者の保護数	112	121	169	138	141	139
高齢行方不明者の届出数	16	24	24	24	22	27
SOSネットワーク 利用数	16	20	24	23	14	18

大牟田警察署調べ

※大牟田市内における認知症高齢者の利用数に限る。障害者や小中学生、広域ネットワーク関係分は含まない。



2015年～3つの課題

当事者視点の重視と**社会参加**

「徘徊」を使わない

⇒社会的排除にならない**社会の醸成**

個々の安全を保持できる**支援体制**の構築

「徘徊」という言葉を使わない意義

「徘徊」という名称を使わないことについての意見交換

(平成27年6月)での主な意見

- 当事者団体が発足し、人権を守るために活動されていることを知り、「徘徊」という言葉を使わないとする市の姿勢に納得した。
- 大牟田は今、小中学生や高校生といった次世代につながるまちづくりを行っている。次世代にしっかりと尊厳を考えたまちづくりを伝えていく上で、「徘徊」を使わないことに賛成だ。
- 以前、テレビの取材の依頼を受けて、当事者と家族に、「徘徊」されている姿を取材していいかと了解をもらわないといけなかったが、『あなたが「徘徊」しているところを取材させて欲しい』とはどうしても言えなかった。何か「徘徊」という言葉を使うことに違和感があった。

「徘徊」という言葉を使わない意義

全国から寄せられているご意見(一部抜粋)

西東京市で「徘徊模擬訓練」という言葉を使うというときに反対したのですが、「大牟田にならっている」とのことで、ダメでした。「徘徊」という言葉がやっと取れたのですね。良かったです。

沼田市は徘徊搜索模擬訓練を「命の宝探し訓練」と名称変更しました。

そう位置づけることによって年をとっても、認知症になっても命という宝の価値は変わらない。探すのが大変ではなくて、だれが一番初めに探すことができるか？と競争して探せる。

そんな街になりたいとずっと思い、何年も言い続けてきました。大牟田をお手本にこれからも頑張りたいと思います。

その他、福岡県内でも「徘徊」という言葉を使わないと表明している市町村が増えています。

認知症の当事者の想い

JR東海事故 最高裁判決に関して
日本認知症ワーキンググループ(JDWG)

共同代表 藤田和子／佐藤雅彦

日本認知症ワーキンググループは、認知症の本人自身の組織であり、認知症と共によりよく暮らしていける社会にむけた提案や活動を行っています。

自由に外出し、町の風景や人たちに触れて暮らすことは、人としてあたりまえのことであり、認知症があっても同じです。

「認知症だと外出は危険」という一律の考え方や、過剰な監視や制止は、私たちが生きる力や意欲を著しく蝕みます。私たちだけでなく、これから老後を迎える多くの人たちも生きにくい社会になってしまいます。

(中略)

今回の判決を機会に、家族だけに責任を負わせず、認知症があっても安心して外出できる地域にすべての市区町村がなっていくよう、誰が何をできるのかを私たち当事者と話し合いながら、具体的な取組みを進めていってほしいと切望します。

全国および福岡県の方行不明者数（平成27年）

	全国	福岡県
認知症行方不明者	12,208人	463人
死亡	479人	16人
未発見	150人	7人

福岡県の取組み状況

(1) ネットワークの構築状況

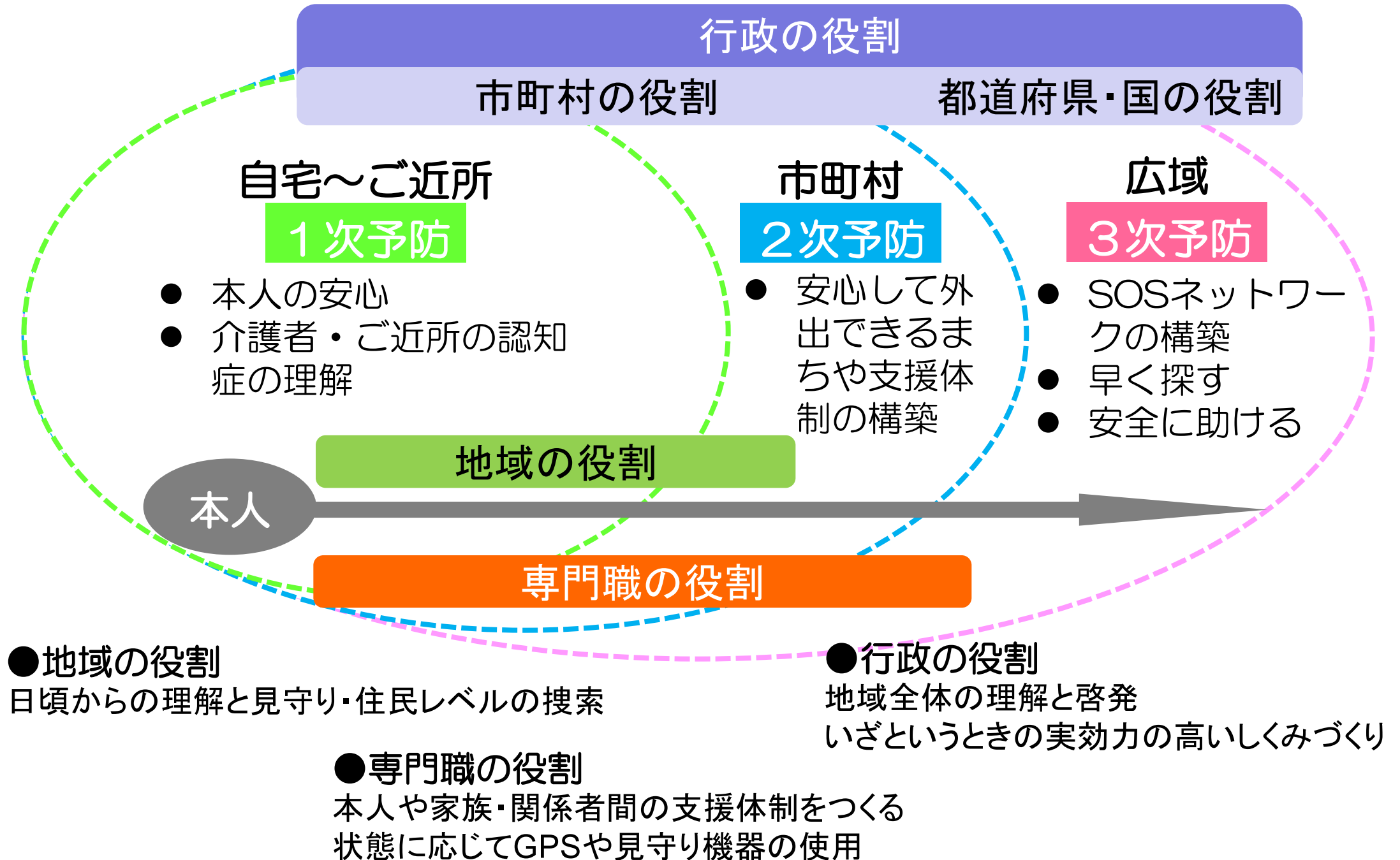
H23.4.1	H24.4.1	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1
17市町	19市町	25市町	29市町	34市町村

(2) 模擬訓練の実施状況

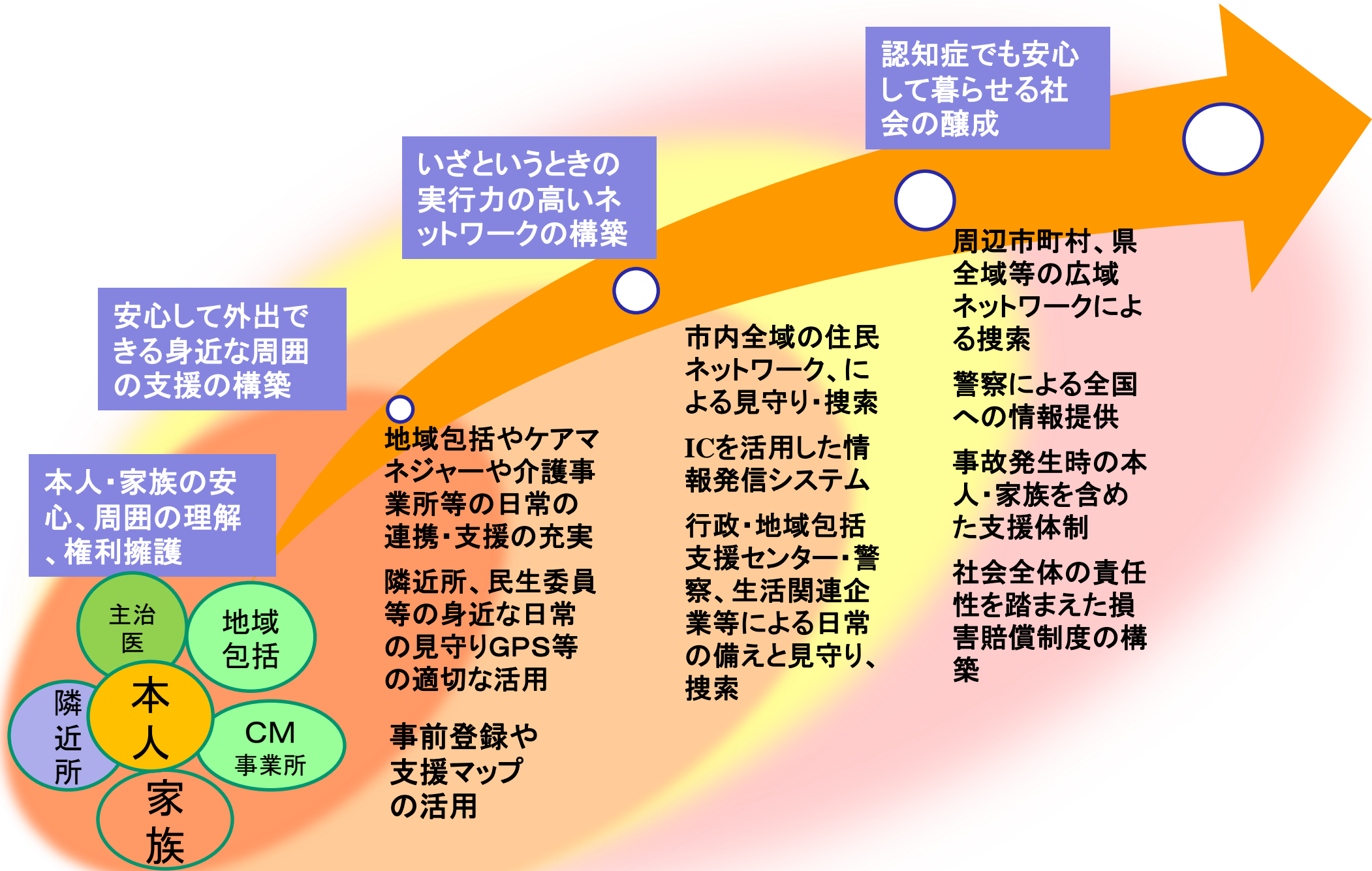
25年度	26年度	27年度
5市	7市	9市町

※平成27年度、訓練の名称から「徘徊」の言葉を6市町が外した。

個々の安全確保のための支援 ~予防体制の構築~



安心して外出できるまちのしくみ



個々の安全を保持できる 支援体制の構築

支援カンファレンス（包括＋認知症コーディネーター＋行政＋関係者）

事前登録と支援マップ作成

ICTの活用（カンファレンスを通して検討）

GPSやICTの活用は、個人の安全保持を補完するもの、あくまでも当事者・家族の補助器具として活用することが重要！

MeMAMORIOとは

MeMAMORIOとは、Beacon(ビーコン)を使ったお出かけ支援ツールです。

地域の見守り支援者はスマートフォンに専用のアプリをダウンロードするだけで、本人とすれ違った位置情報を主たる介護者に知らせることができます。外出した認知症の人の尊厳を守りながら、地域の協力者はアプリのダウンロードのみにより、緩やかに見守りへ参画できる外出支援システムです。



タグ

MAMORIOアプリ画面



5つのスローガン

これまでの小中学校での絵本教室の子供たちや地域ふれあいフォーラムでの参加者の声より

1. わがまち、わが校区を安心して生活できる町にしよう！
2. まちがって声かけても、笑い合える町がいい！
3. 認知症、知っててあたりまえのまちをつくろう！
4. 日頃から声かけ合える地域力を高めよう！
5. 実効力の高いネットワークに育てよう！



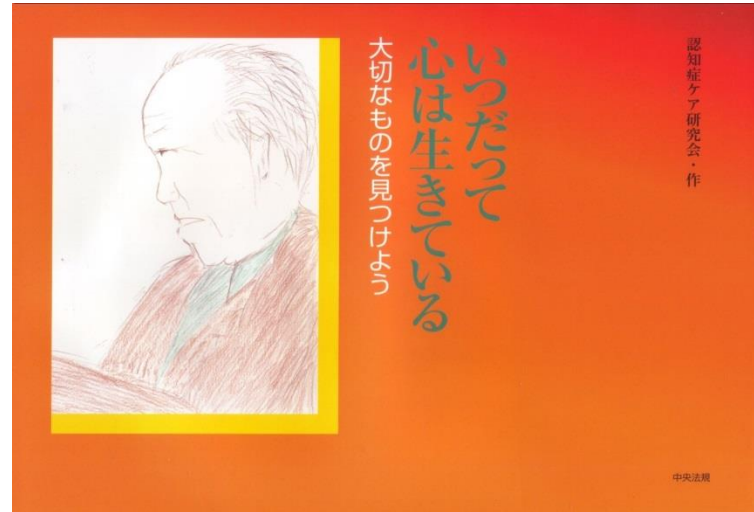
絵本

いつだって心は生きている ~大切なものを見つけよう!
絵本教室の実績

子供の時から
学んだり、
触れたりできる
ことで、認知症
だけでなく、
困っている人や
悩んでいる友達を
思いやる心を育てる



次世代のまちづくりの
担い手



絵本の物語を使い
認知症について
学び、
どんな支えが必要か
グループワーク

平成16年	4校
平成17年	7校
平成18年	8校
平成19年	13校
平成20年	13校
平成21年	17校
平成22年	19校
平成23年	15校
平成24年	21校
平成25年	17校
平成26年	15校
平成27年	16校

延べ165校

(小・中学校合わせて)

9,500人以上の
子どもたちと勉強しました

大臣への提言

1. 全国のどの町でも、地域住民と共に、世代を超えた認知症の理解と見守りのネットワークが構築できるよう10年プランの継続的な推進を図る
2. 認知症でも安心して外出できる社会の実現に向けて、全ての地域活動から「徘徊」という言葉を使わないこととする

1. 認知症の当事者や家族、専門職、小中高生や地域住民、みんな が共に築くまちづくりが、真の認知症にやさしい社会をつくる
2. 当事者同士が出合い、励まし合って、社会参加できるために、全国のどの町にも当事者交流会ができて全国の仲間と交流できる機会をつくる

1. **次世代のまちづくり**のために、全国の小中学生が、認知症の学習やまちづくりの参加する機会を持てるようにする
2. **世界共通のまちづくり**～認知症にやさしい社会のための子どもサミットを開催する

1. 認知症支援の人材育成は、地元醸成だからこそ**“かけはし”**になれる。本市の認知症コーディネーター養成のような自治体独自の人材育成を応援できるしくみをつくる

認知症でも安心して外出できるまちへ

- 世代を超えた地域住民の認知症の理解が広まり、見守りのネットワークができている
- 行政が明確なビジョンを持ち続け、アクションプランとして実践している
- 核となる人材が育成され、地域の拠点に配置されている
- 医療と介護が連携し、早期診断、予防、早期支援のしくみができている
- **いつも当事者や家族が参加し、共に築くしくみができている**

認知症の人とともに暮らすまちづくり宣言2015

平成17年1月、私は大牟田市長として初めて、認知症の人とともに暮らすまちづくりを推進していくことを宣言し、この10年間、「認知症になっても安心して暮らせるまち」を目指してまいりました。

本日、記念すべき10年の節目を迎え、これまでの多くの市民による絶え間ない努力と成果をしっかりと胸に刻み、これからの10年に向けて宣言します。

「大牟田市は、子どもから大人まで、あらゆる世代の市民が心を一つにして、認知症の人やその家族の願いに寄り添い、地域社会において、誰もが人として尊重され、安心して暮らせるまちづくりを推進してまいります。」

平成27年1月25日 大牟田市長